



DMM ドリームクラブ所属・所属予定馬月次報告 (2018年4月)

【3歳】

キタノコマンドール オープン

出走レース: 第78回皐月賞・GI(4月15日、3歳オープン、中山競馬場、芝2,000m)=5着

栗東Cウッドチップコースで追い切りを3本消化して、皐月賞に臨みました。初めての重賞がGIで、しかも初めての長距離輸送。初物尽くしの一戦でしたが、馬体重(プラス12kgの502kg)が示す通り、輸送のダメージは全く見られず、大観衆が集まったパドックでも落ち着いた様子を見せていました。レースは先行した3頭が後続を大きく引き離す変則的な展開になりました。本馬は内側から他馬に押され、一時は最後方まで下がる苦しいレース運びとなりましたが、上がり最速タイの34秒8の脚を使って追い込んできました。勝ったエポカドーロに0秒6離されたものの、鼻差の競り合いをしのいで5着を確保。日本ダービー(5月27日、東京競馬場)の優先出走権を獲得しました。初黒星を喫したとはいえ、4コーナー2~5番手の馬が上位3頭を占めた流れの中、同13番手から3着と同タイムまで押し上げたのは実力の証明です。世代トップクラスの能力を証明したことで、競馬の祭典・日本ダービーへの視界が明るくなりました。レース後の回復は早く、ノーザンファームしがらきでリフレッシュしてから、5月1日に栗東トレセンに帰厩。同3日には早速時計を出しています。2,400mへの距離延長、直線の長い東京コースは望むところで、世代の頂点に立つ期待が日増しに高まってきました。(栗東トレーニングセンター)

アイワナシーユ 未勝利

リフレッシュ放牧も2ヶ月を過ぎ、乗り運動のペースが上がってきました。乗り手の指示に従いながら、全身をしっかりと使って走っており、気の悪さは見せていません。フットワークが大きく、小柄に見せないのは全体に良くなっている証拠でしょう。クールダウンのウォーキングマシンや手入れの際も非常におとなしく、精神面が安定している印象を受けます。馬体重は5月2日時点で417kgと、徐々にではありますが増加傾向にあります。状態は確実に上向いており、今後は5月末頃の帰厩を目指して調整を進めます。(ムラセファーム)

ディープシャイン 引退

1月の故障発生から、吉澤ステーブル、競走馬リハビリテーションセンターで療養を続けてきましたが、この度、右後脚の浅趾屈腱(せんしくっけん)が外側に逸脱したことが確認されました。獣医師より「右浅趾屈腱脱位」と診断されたことを受け、苦渋の決断ではありましたが競走馬としての復帰を断念し、現役引退の運びとなりました。5月2日に競走馬登録を抹消。同3日に麻布大学で去勢手術を行い、同6日に高木競走馬育成牧場に移動しました。今後は茨城県かすみがうら市の霞ヶ浦ライディングファームに移動して、功労馬として余生を過ごします。腱が元の状態に戻ることはありませんが、脚部の状態を見ながら、訓練に耐えられるようであれば、乗馬を目指してトレーニングを始める予定です。(高木競走馬育成牧場)

【2歳】

アジーマ2016 《GR2》7月育成卒業見込み

調教メニュー: 月前半=角馬場でダク(速歩)1,200m、ハツキング(軽いキャンター)1,200~2,000m、月後半=BTC(軽種馬育成調教センター)1,600m 直線コース(ダート)でキャンター、ゲート練習

着地検疫が終わり、月末からBTCの施設を利用できるようになりました。運動量が多くなったことで、少しテンションが上がってきたようです。調教中に時折、頭を振るようなしぐさが出てきましたが、もともと精神的に大人びた面がある馬ですので、それほど心配はいらないでしょう。馬体的にはやや線が細い面があり、もう少し体重が増えてくると理想的と言えます。今後は飼葉の量を増やして、全体的なパワーアップを図る予定です。(吉澤ステーブル本場)

◇馬体重470kg 体高158cm 胸囲176cm 管囲19.3cm(4/18)

オグリロマンス2016 《GR3》9月育成卒業見込み

調教メニュー: BTC(軽種馬育成調教センター)屋内1,000m 坂路(ウッド)で週1日1ハロン(約200m)平均14~17秒台の調教、1,600m直線コース(ダート)または1,600mトラック馬場(ダート)で週1日18~20秒のキャンター、ゲート練習

3月中旬から乗り込みを再開しましたが、調教が進むと活気が落ちてくる傾向があり、なかなか馬体がふっくらとしてきません。若干脚元を気にする様子が見られ、その後、右前脚の内側に骨瘤を発症したことから、育成卒業目標を延期しました。今後は馬体の成長を促しながら、じっくりと乗り込んでいく予定です。今月から始まったゲート練習は枠入り、駐立と特に問題はありますが、出は速くありません。練習を重ねながら上達を目指します。(吉澤ステーブル本場)

◇馬体重436kg 体高160cm 胸囲179cm 管囲19.5cm(4/18)

キタノインパクト 《GR1》3月育成卒業

調教メニュー:屋外 750m 坂路(ポリトラック)で週 2 日 1 ハロン(約 200m)平均 14~15 秒台の調教、それ以外は屋外 1,100m 周回コース(ポリトラック)で乗り込み

山元トレーニングセンターに到着後も、調整は順調です。入厩を前に、現在は体の使い方をより実戦向きに整えているところですが、学習能力の高さは山元のスタッフも認めるところで、日ごとに前進が見られます。首の使い方をはじめとした身体の使い方が良くなったことで、一完歩の伸びが増してきました。いい形で調整が進んでいます。入厩時期については、藤沢調教師と相談の結果、5月16日で最終調整に入りました。デビュー時期、レースの選定は、藤沢師が入厩後の動きを見て判断することになります。(山元トレーニングセンター)

◇馬体重 488 kg(5/2) 体高 163.5cm 胸囲 183cm 管囲 20.6cm(3/14)

ゴッドフェニックス 2016 《GR4》10月育成卒業見込み

調教メニュー:月前半=1,400m ダートコースで 1~1 周半のキャンター、同コースで週1日強めの調教、月後半=休養

月の前半は、屋内周回コース(ダート)で体をほぐし、ダートコースで脚を伸ばすメニューをこなしていました。調教量が増え、それに連動して飼葉量も増えたことで、体つきがグッと良くなってきましたが、左前脚の球節に腫れが出たため、後半は休養に充てることになりました。良化が著しかっただけに残念ではありませんが、これまでゆっくりと成長を促してきた経緯がありますし、血統的に晩成傾向の馬でもあります。今後も状態と相談しながら、焦らずに調教を進めていく予定です。(下河辺牧場)

◇馬体重 460kg(4/23) 体高 162cm 胸囲 177cm 管囲 19.6cm(4/27)

スティールプリンセス 2016 《GR3》9月育成卒業見込み

調教メニュー:BTC(軽種馬育成調教センター)屋内 1,000m 坂路(ウッド)で 1 ハロン(約 200m)平均 17~20 秒台の調教、ウォーキングマシン、ゲート練習

少し体が細くなって休ませた時期もありましたが、坂路を中心に乗り込んでいます。大きな問題はなく調教を重ねていますが、先頭に立つと止まろうとするシーンが見られるなど、随所に繊細な面が見られます。精神的な面を考慮すると、緩やかなペースで段階的に育成を進めた方が良さそうです。スケールの大きさは誰もが認めるところですので、長所を伸ばしていけるように、馬体の成長を促しながら慎重に乗り込んでいきます。(吉澤ステーブル本場)

◇馬体重 475 kg 体高 156.5cm 胸囲 183.5cm 管囲 19.0cm(4/18)

タミーン 2016 《GR2》6月育成卒業見込み

調教メニュー:月前半=屋内周回コース(ダート)で軽い調教、月後半=休養

順調に乗り込み、育成卒業まであと一步のところまで来ていましたが、疲れが出たのか脚の運びに滑らかさを欠く様子が見られました。跛行というほどの乱れではなく、腫れや熱、骨や腱の異常はありませんが、原因が特定できないため、後半は無理をせずに休養に努めました。現在はショックウェーブ療法で様子を見ながら、状態が上向いてくるのを待っている段階です。今後も状態と相談しながら、慎重に調教再開のタイミングを模索していきます。(下河辺牧場)

◇馬体重 503 kg(4/23) 体高 160cm 胸囲 182cm 管囲 21cm(4/27)

ナイトヴィジト 2016 《GR3》8月育成卒業見込み

調教メニュー:月前半=角馬場でダク(速歩)1,200m、ハッキング(軽いキャンター)1,200~2,000m、月後半=BTC(軽種馬育成調教センター)1,600m 直線コース(ダート)でキャンター、ゲート練

暖かくなり、飼葉をよく食べていることで、毛づやが良くなってきました。馬体がボリュームアップして、全体のメリハリもついてきた印象です。着地検疫が終わり、4月末から BTC の施設を使えるようになりました。少しハミを頼って走るような面はありませんが、動きはなかなか軽快で、乗り込むにつれて良くなってきそうな雰囲気があります。このまま順調に調教を積んでいけるようなら、育成卒業の見通しを早められるかもしれません。(吉澤ステーブル本場)

◇馬体重 471kg 体高 158.5cm 胸囲 184cm 管囲 20cm(4/18)

フィバリッシュ 2016 《GR3》9月育成卒業見込み

調教メニュー:屋内 1,020m 直線坂路(ウッド)で 1 ハロン(約 200m)平均 17~18 秒台の調教、または屋内周回コース(ダート)で同 20~22 秒台の調教 2,000~2,500m

調整のピッチが徐々に上がって、現在は坂路と周回コースでキャンターをできるまでになりました。まだゆっくりとしたペースではありますが、落ち着いた様子で軽やかな動きを見せています。ようやく育成が軌道に乗ってきた印象です。なかなか順調にいかなかった馬ですので、まずは現在のペースを落とさずにしっかりと乗り込んでいくことが目標になります。左後脚の骨膜をはじめとした脚部の状態は安定しています。乗り込んで基礎体力がついてくれば、調教の強度を少しずつ上げていけるでしょう。(追分ファームリリーバレー)

◇馬体重 489 kg(4/17) 体高 164cm 胸囲 183cm 管囲 20.1cm(4/18)

マネーペニー2016 《GR4》10月育成卒業見込み

調教メニュー:BTC(軽種馬育成調教センター)屋内 1,000m 坂路(ウッド)で週 1 日 1 ハロン(約 200m)平均 18~19 秒台の調教、屋内 1,000m 直線コース(ウッド)または 1,600m 直線コース(ダート)、1,600mトラック馬場(ダート)で週 1 日 18~20 秒の調教、ゲート練習

テンションが高い面があり、騎乗者が抑えるのに苦労するシーンが見られます。調教による疲れは見られず、飼葉食いも旺盛ですが、なかなか馬体が増えてこないのは懸念材料と言えます。この中間はゲート練習を始めていますが、駐立はスムーズで、発馬もかなり速い部類に入ります。動きは機敏で、運動神経の高さを見せているだけに、全体的にどしとした面が出てきてほしいところです。今後もゆっくりと調整を進めながら心身の成長を促していく予定です。(吉澤ステーブル本場)

◇馬体重 412kg 体高 157cm 胸囲 179cm 管囲 19.2cm(4/18)

ラヴズオンリーミー2016 《GR2》7月育成卒業見込み

調教メニュー:屋内 800m 直線坂路(ウッド)で週 3 日 1 ハロン(約 200m)平均 15 秒台の調教、週 3 日屋内周回コース(ダート)でキャンター2,400m

前月に引き続き、坂路と周回コースを併用して乗り込みを重ねています。休まず乗られながらも馬体重は徐々に増え、見た目にも張りが出てたくましさを感じられるようになってきました。それに伴い、フットワークも力強さを増した印象です。気性の幼さも抜けてきて、ここにきて心身の成長がうかがえます。当初は5月の育成卒業を予定していましたが、さらに成長を促したいという矢作調教師の意向で、本州への移動時期を延期することになりました。体調面の不安はなく、もう一段上のレベルを目指して乗り込みを続けます。(ノーザンファーム)

◇馬体重 460 kg (5/1) 体高 160cm 胸囲 180cm 管囲 20cm (4/26)

ワナダンス 2016 《GR2》6月育成卒業見込み

調教メニュー:屋内 800m 直線坂路(ウッド)で週 2 日 1 ハロン(約 200m)14~15 秒台の調教、週 1 日同 16~17 秒台の調教、屋内周回コース(ダート)で週 3 日キャンター1,800~2,400m

少しずつ動きがしっかりしてきました。もともと素軽い走りをする馬ですが、力強さも加わるように現在は体力強化に努めています。今月は休まずに乗り込んだことで、全体的に筋肉がついてボリュームが出てきました。体調面の落ち込みもなく、いい形で育成が進んでいます。引き続き6月の移動をイメージしながら調教を重ねていきます。(ノーザンファーム)

◇馬体重 446 kg(4/15) 体高 156cm 胸囲 177cm 管囲 20cm (4/24)

【注】2歳馬は育成卒業見込みの時期に応じて、GR1(3~5月)、GR2(6~7月)、GR3(8~9月)、GR4(10~11月)にグループ分けしています。美浦または栗東トレセンへの入厩時期は、育成を卒業して1~2ヶ月ほど調教施設で調整してからになるのが一般的ですが、あくまで目安で、今後の状態や牧場、調教師の判断で予定が大幅に変わるケースがあります。また、この指標は競走能力を示すものではありません。

【1歳】

ヴィクトリーマーチ 2017

外傷は完治して、パドック放牧から通常放牧に移行しましたが、その後も他馬と接触して軽い外傷を負う場面が見られました。トラブルにならないよう、現在は1頭で放牧したり、ペテランの馬と組み合わせるなど工夫しています。元気で前向きな長所を損なわないようにしつつ、順調に育てていきたいところです。(追分ファーム)

◇馬体重 419 kg(4/30) 体高 151cm 胸囲 172.5cm 管囲 19.4cm(4/18)

キタノブルー

暖かくなり、冬毛が抜けて毛づやが良くなってきました。夜間放牧が始まり、雨や風にさらされる時間が長くなりましたが、よく食べて動いており、健康状態は良好です。名前が発表されて注目度が高まっていますが、今のところは期待通り順調に成長しています。(下河辺牧場)

◇馬体重 363 kg 体高 155cm 胸囲 167cm 管囲 20.2cm(5/1)

クラリネット 2017

夜間放牧が始まりました。相変わらず落ち着いた様子で放牧時間を過ごしています。腹袋やトモが少しずつ充実してきて、全体に力強さを増してきました。体重は日ごとに増加しています。旺盛な食欲を見せており、今後さらに馬体が成長してきそうです。(下河辺牧場)

◇馬体重 380 kg 体高 153cm 胸囲 170cm 管囲 19.5cm(5/1)

サラファン 2017

発育状態が良く、体が大きくなってきました。脚元は丈夫で、現時点で不安な点は見受けられません。中旬から夜間放牧を始め、運動量が増えています。それに伴って飼葉の量も増やしており、今後はさらに馬体が充実してくるでしょう。(辻牧場)

◇馬体重 403 kg(5/2) 体高 151cm 胸囲 165cm 管囲 20.5cm (4/24)

シュガーハート 2017

暖かくなり、放牧地に出てきた新芽をたくさん食べ、すくすくと成長しています。き甲が上がってきて、ややトモ高だった全身のバランスは良くなってきました。まだまだ成長の余地は大きく、これからさらに良くなってくでしょう。(ヤナガワ牧場)

◇馬体重 377 kg(4/25) 体高 153cm 胸囲 168cm 管囲 20cm(4/26)

スターズインハーアイズ 2017

他馬にちょっかいを出したり、噛みつきにいたり、相変わらずやんちゃで気の強い面を見せています。体は小さめですが、少しずつ成長して毛づやも良くなってきました。やや詰まった馬体は加齢とともに変わってきそうな雰囲気があります。今後の変化を見守っていきたいところです。(矢野牧場)

◇馬体重 364kg 体高 148cm 胸囲 165cm 管囲 19.3cm(4/24)

ツルマルハロー 2017

馬体は順調に成長しており、さらにパワフルになってきました。冬毛が抜け、毛づやも良好です。気が強いのは相変わらずで、群れの中ではリーダー格のようです。夜間放牧が始まり、時に厳しい環境に身を置くこととなりますが、現状は問題なく対応できています。(下河辺牧場)

◇馬体重 421 kg 体高 151cm 胸囲 174.5cm 管囲 20.5cm(5/1)

ディヴィナプレシオーサ 2017

体は順調に成長して、ボリューム感にあふれるシルエットになってきました。放牧地では他馬と積極的と遊ぶというよりも、マイペースに過ごす時間が長いタイプ。馬房では排泄物を決まった場所にするなど、賢い面が見受けられます。心身ともにいい形で素質を伸ばしています。(追分ファーム)

◇馬体重 443 kg(4/30) 体高 152cm 胸囲 176cm 管囲 20.2cm(4/18)

ドナブリーニ 2017

気の強い性格なのか、放牧地では他の馬たちを威嚇する様子が多々見受けられます。天候が悪く、夜間放牧の予定がなくなったりもしましたが、生育に影響はありません。放牧地に雪がなくなり、運動量が増えたことで一時的に体重が減少しましたが、すぐに回復してくるでしょう。今後馬体がどう変わってくるか注目です。(ノーザンファーム Yearling)

◇馬体重 368kg(4/24) 体高 154cm 胸囲 168cm 管囲 19.2cm(4/11)

【当歳】

キストウヘヴン 2018

発育は順調です。これまでは日中に放牧していましたが、ゴールデンウイーク明けから昼夜放牧を開始して、運動量が増えてくることでしょう。競走馬への道のりはまだまだ遠いですが、元気いっぱい放牧地を駆け回って、大きく成長してもらいたいものです。(オリオンファーム)

◇馬体重 138 kg(4/15)

シスタリーラヴ 2018

今月から募集予定馬に名を連ねることになりました。まだ撮影時にカメラや撮影スタッフを気にしているようですが、慣れてくれば問題ないでしょう。バランスが良く、力強さも感じさせる馬体は、ダイヤの原石を思わせます。全姉、全兄がセリで高値を付けている良血馬がこれからどう輝きを増すのか、成長が非常に楽しみです。(矢野牧場)

◇馬体重 127kg(4/24)

ラヴインザダーク 2018

元気に放牧地を走り回り、しっかりと牧草を食べています。順調に成長曲線を描いています。母はモーリスの受胎を確認しました。本馬ともども、未来のバヌーシーを支えるサラブレッドに育ってもらいたいものです。(パカパカファーム)

◇馬体重 146 kg(5/3)

(報告内容は5月6日時点。体重、測尺値の日付は測定日)